



# 善正寺だより

〒:512-0902  
 三重県四日市市  
 小杉町1014  
 浄土真宗  
 本願寺派  
 善正寺  
 ☎:059-331-1670  
 fax:059-332-0733

## 掲示板法話

### 長寿がめでたいのではない いのちの質が問われる



新型コロナウイルスの世界的な感染が始まって、三年目の今夏もまた感染拡大に悩まされました。「家族が感染したので、法事の延期を」とか、「濃厚接触者になってしまいました…」などの話を身近なところで聞きました。

医療や救急、介護などに従事される方々のご苦労に対して、心よりの感謝を申さねばなりません。自分が直接治療されなくとも、究極の拠り所たる、セイフティ・ネット(安心、安全のための社会的仕組み)の存在によって、我々は安心を頂いているのですから…。

さて九月になると敬老の日が近づき、長寿の話が報道されます。世界一の長寿大国日本、昨年9月の百歳以上人口が、86510人でしたから、今年も9万人を超えているのではないかと予想されます。51年連続の増加で2045年には38万人を超えるだろうという推計がありますので、皆さんの中にも百寿の仲間入りできる人が現れるかもしれません。

命の質が大切ですね。かつて、善正寺の総代を長く勤めて下さったお方が、米寿の祝いをされたときに詠まれた歌があります。

喜寿米寿 白寿百寿も何のその  
 我は無量寿 南無阿彌陀仏  
 喜寿は77歳、米寿は88歳、白寿は99歳、百寿は百歳、それは確かにめでたいけれど、(そこまで長生きできなくても)私は、今既にお浄土に生まれて無量寿のいのちの仏さまに成り往くことが今、約束されてある身こそ、真にめでたいのです、という信心を述べられたお歌ですね。

この世の縁が尽きて如来さまの浄土に生まれ無量寿の仏に成ることが、今娑婆の命のある間に定まり、「転悪成善」(悪を転じて念仏の善と一味になる)という御利益、「心多歡喜」(心が真の喜びに包まれる)、「常行大悲」(如来の大悲を人に伝える)などの尊いご利益に包まれた生活をさせて頂けるのです。

「詠み人知らず」の歌ですが、  
 「ありがたや 今日も一日無事過ぎた 老いの小道に落日豊か」

『老楽笑歌』林あや子編  
 「高齢の方が今日の一日を振り返って、夕焼けのお日様に照らされ、お陰様の日でした、と振り返っておられる。それは長い人生を振り返つての報恩の心からの味わいでもありません。老苦も死苦も受け止めてお浄土につながる人生の妙味が感じられますね。」



## ☆行事ご案内☆

### 秋季永代経 今年から9月第3土・日に移動

9月17(土)・18(日)両日 午後1時半

講師:加藤正人先生(桑名)

※お経開き(招待者)17日(土)午前10時半

毎夕5時の鐘撞き年中無休、誰でも撞けます。親子お揃いでどうぞ!ご褒美にガムやチョコ、現代っ子に心の教育を☆報恩講 11月2日午後1時半、3日午前10時、午後1時 仏婦報恩講 講師:守快信師※2日夜の法座はありません

善正寺ホームページ:三重善正寺で検索1年分の寺報閲覧可 毎日更新ブログ住職と坊守のつれづれ日記好評、約80人が毎日訪問、開設14年1カ月で38万5千訪問、悩み・仏事相談OK、お気軽にメールか電話を。即返信

一縁会テレホン法話 ☎059・354・1454

3分間の法話、三重組5か寺週替わり担当、新刊本発売中

新納骨堂:後継者の無い方、墓でお困りの方ご相談を!

法事場所でお困りの方:本堂使用可、寺にご相談下さい

三重組コーラス再開 智積西勝寺様 10/3、11/22、12/8

三重組十三日講:10月13日 塩浜西願寺様で、守快信師 来年5月21日西本願寺慶讃法要バス参拝善正寺 15名募集

## ☆ 写真アラカルト ☆



# 坊守スケッチ

## 借りを返す人生

コロナ第7波が爆発的に拡大して過去最多数の感染を記録しました。日々不安に怯えながらも、できる限り予防に気を付けたいと思います。

ところで故永六輔氏は浄土真宗の寺に生まれ、父忠順氏を尊敬していました。父親のモットーは「無理をしない」「静かに生きる」「借りたら返す」の三点。特に父は「借りたら返す」ということを大切に生きてきました。

「手紙の返事もかけない忙しさは、人間として恥ずかしい」という父の躰で、永氏は放送人として年間3万通を超える全ての投書に返事を書いて倒れたことがあります。父の一番大切な教えを六輔氏が詞を書き、中村八大氏が作曲しました。「生きているということは、誰かに借りを作ること。生きてゆくということは、その借りを返していくこと。誰かに借りたら、誰かに返そう。誰かにそうして貰ったように、誰かにそうしてあげよう。まさしく『お互い様』の心が生きています。

私も寺に嫁いで47年。地域の絆を大切にすると共に住んで、永氏のお父様の言葉が心に響きます。亡き先代住職はとて筆まめな人でした。毎日せつせと手紙を書いて投函していました。亡き先代坊守も「たとえ寺とはいえ貰い捨てはいけない」と言いました。



私は先代夫妻の姿から「モノのやり取りは人間関係の潤滑油。それによってお互いの心が通い合うきっかけになればよい」と学びました。

今や世界は平和な時代が終わり、一触即発の不穏な時代に突入しました。ロシアのウクライナ侵攻も、いつ終わりを迎えるのか予測が付きません。

こんな時こそ、戦後の苦しく悲惨な時代を乗り越えた日本が、困った人にお返しをする番が来りました。また国内各地の自然災害の救援も必要です。亡き人が命がけで守って下さった平穩で無事な現在の生活を感謝して、今困っている人の為に救いの手を差し延べましょう。自分さえよければ、今さえよければという気持ちを持て、皆が幸せになることを目指す「借りを返す人生」を心がけたいものです。

### 俳壇

ピル街を浴衣雪駄の力士かな 釋妙水  
 夜濯ぎや明日の朝には乾きをり  
 元氣届くはみ出している大ひまわり  
 葉隠れに蝉の寝言や昼下り 釋樂邦  
 夏木立木漏れ日映るハート型  
 吾ひとりトンボの群れの中にある  
 花筏ひとつふたつが十になり 釋住安  
 百日紅寺の大屋根見上げをり  
 白魚の黒目ふたつに掌を合わす  
 妹の寝息のかすか扇風機 釋秀龍

### 若坊守の子育て日記No.93

夏休みです。お子さんやお孫さんほどのようにお過ごしですか？  
 コロナで自由に行ける場所やできることが減りましたが、夏休みの宿題は減りません。

五年生になった長男には自由研究が必須です。理科か社会を選択しますが、長男は社会にしました。  
 クラスのほとんどが理科を選んだそう、社会は少数派だとか。  
 自由研究のテーマは「四日市公害」。今年度は四日市公害裁判決から五〇年の節目で、「四日市公害と環境未来館」では特別展示がありました。

新聞やテレビ等で四日市公害に関するものを見聞きした方もいらつしやると思います。最近の小学校の授業ではかなりしっかりと公害について学ぶよう、環境問題に対する認識を早くから持つことが重要なようです。調査を進めると新たに知ることも多く、今も公害による喘息などの患者がいることに驚きました。現在の四日市の青空を、次世代の子ども達にも残していけるよう努めたいと思います。



※ 万緑やライフジャケツト干されけり  
 黒揚羽ひらり野原の奥へ奥へ  
 緑陰や我呼ぶ声は小綬鶏か 釋清風  
 物憂くも新聞を読む端居かな  
 百日を過ぎ百日紅いまもなお

### お悔み申し上げます

★青木昭男様(81歳) 7月20日  
 往生、小杉1丁目 合掌

★服部哲弘様(66歳) 7月26日  
 往生、小杉 合掌

### カンパありがとう

伊藤鈴子様、富田和代様、UN様、HY様、他匿名様より感謝！

### お知らせとお礼

※7月末から本年度門信徒会費を行事さん、総代さん、住職らが分担して集めさせて頂きました。皆様の協力に感謝し、厚くお礼を申し上げます。  
 ※秋季永代経を今年より9月第3土日(17日・18日)の午後に変更します。猛暑とコロナが治まり安心してお参りできますように願っています。

### ★ 編集子より ★

「善正寺だより」345号をお届けします。◇大雨、猛暑、コロナ大流行に悩まされた夏。◇夏休みといえば、子供たちの元気な歓声があちこちから聞こえてくる、というイメージがあるが、それも今や昔。何とも淋しいこと。◇コロナ禍が3年も続き、寺の本堂で法要をお勤めされる頻度が増えた。エアコンを入れ、全面網戸で換気をするので涼しくて安心だと好評のようだ。◇門徒宅での法要もこうした工夫を取り入れられるならば、有難いと思われる。◇来春は親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年慶讃法要の年、コロナ禍を超えてお参りしたい。合掌。

続く↓

最近学校卒業後の離職率が七五三現象と言われる。  
中卒の七割、高卒の五割、大卒の三割が卒業後三年以内に  
転職するらしい。定年まで勤めるといふのは過去の遺産。  
自分に合わない上司が気に入らないと思えばさっさと辞めてい  
近年これを許す社会や家庭環境がある。先日何度  
も転職し三年以上引きこもり生活を続け、生活保護を  
受けている一人暮らしの三十代男性から悩み相談の  
電話があった。家族とは疎遠になり、うつ病で心療  
内科にも通院。私に電話をしてきたからには「何とか  
この状況から抜け出したい」という思いがあったに違  
ない。「今や人生百年時代にあなたはわずか三分の一か  
生きていません。勿体ないと思いませんか？ 地表に現わ  
れる前に地中で数年間を過ごし、やっと地上に出て真  
夏のたった三日間しか生きられずに一生懸命に鳴く  
セミと似ています。セミは春も秋も冬も知らずに一生を終  
えます。あなたの命の中にはたくさんのご先祖や家族  
の願いが詰まっています。それに気付いて長い人生を歩  
む一歩を踏み出して下さい。心の窓を内側から開けてト  
ネルの先にある光を見つけて下さい」とアドバイスをした。  
ところで「秋季永代経」は例年猛暑のお金過ぎ  
でした。今年は一ヶ月遅れの九月の第三土曜日（今  
年は17日と18日）午後に移動しました。コロナが落ち着  
いて皆様が安心してお参り下さることを願ってお  
ります。くれぐれもご自愛下さいませ。 合掌

令和四年九月

善正寺坊守様